

青年海外協力隊発足50周年記念式典の開催

01



青年海外協力隊事業を支えきた方々に感謝を述べる北岡伸一JICA理事長

JICAは、昨年11月17日、50周年を迎えた青年海外協力隊事業の記念式典を横浜市で開催しました。式典には、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、青年海外協力隊をはじめとするJICAボランティア経験者や支援者など、約4500人が出席しました。

式典の第一部では、本原誠二外務副大臣より安倍晋三内閣総理大臣の祝辞が読み上げられ、協力隊の活動を「日本外交の宝」とする謝辞が伝えられました。また、ラオス人民民主共和国のトンシン・タンマヴォン首相がビデオメッセージを通じて、JICAボランティアが、文化や習慣などの違いがある中でも、住民と共に粘り強く課題解決に取り組んでいることに感謝の意を表明。さらに、協力隊経験者が受け入れ国への謝意と協力隊の経験を社会に還元していく決意を述べたほか、次世代を担う高校生からは、国際貢献に携わりたいという力強い宣言がありました。

第一部終了後には、JICAボランティア経験者らが、天皇皇后両陛下と懇談しました。両陛下は、1965年に青年海外協力隊が発足した当初から関心を寄せられており、これまでも多くのJICAボランティアが励みや労いのお言葉を頂いています。

第二部では、アフリカ民族音楽の打楽器演奏や、鈴木大地スポーツ庁長官と帰国隊員による「あなたの経験を未来へ」と題したパネルトーク、協力隊を描いた映画「クロスロード」の紹介などが行われました。そのほか、アンダーグラフの真戸原直人氏まるとはらが制作した協力隊50周年のイメージソング「ひとりひとつ」を、協力隊を応援する著名な方々が一緒に歌い上げました。

JICAはこれまで、青年海外協力隊員をはじめ、約4万8000人のボランティアを開発途上国に派遣しており、この取り組みは、青年からシニア層まで幅広い世代の国民が参加する事業に成長しました。

今後もボランティア事業を通して、途上国の課題に草の根レベルで取り組み、各国の社会・経済の発展に貢献していきます。



関係者と懇談される天皇陛下

マラウイ最大の国際空港の拡張に貢献

02



調印式の様子

JICAは、昨年11月4日、マラウイ政府との間で「カムズ国際空港ターミナルビル拡張計画」を対象とする無償資金協力の贈与契約を締結しました。

カムズ空港は、同国最大の国際空港で、1978年と80年の日本の円借款によって開港。2003年からの10年間で、取り扱い旅客数が約10万人増加し、チェックインカウンターや出入国管理カウンターなど、旅客ターミナルの混雑が問題となつていきます。加えて、航空機運用の安全性確保のため、新たに航空機監視システムの導入が必要となつていきます。

本事業により、取り扱い可能旅客数は現在の21万5000人から30万6000人まで増加する見込みです。ピーク時の待ち時間を大幅に短縮できるほか、航空機監視システムの導入で、空港機能の安全性の向上が期待されます。こうした改善は、産業振興や観光・投資環境の向上にもつながるものです。

JICAは、航空管制に携わる人材育成の協力なども併せて実施し、同国の航空基盤の整備を包括的に支援していきます。

国際緊急援助隊・感染症対策チームの立ち上げ

03

JICAは、昨年10月20日、国際緊急援助隊・感染症対策チームの登録隊員の募集を開始しました。同感染症対策チームは、今回、新たに立ち上げられたもので、国際社会での大規模な感染症の流行による被害を最小限に抑えるために活動を行います。

これまで日本は海外の災害に対して、国際緊急援助隊として捜索・救助活動を行う救助チーム、災害医療を専門とする医療チーム、災害応急対策・復旧のための助言を行う専門家チーム、さらには、自衛隊部隊を派遣してきました。

2014年、西アフリカで感染が拡大したエボラ出血熱への対応を踏まえ、世界の感染症対策をより効果的に支援するため、国際緊急援助隊・感染症対策チームの立ち上げが実現しました。

JICAは感染症対策に関わる幅広い分野で支援を展開するため、疫学、検査診断、診療・感染制御、公衆衛生対応、ロジスティックの5つの分野で知識・経験を有する専門家を、派遣隊員候補者として募集します。

【問い合わせ】

JICA国際緊急援助隊事務局
jicadr-kensyu@jica.go.jp

【URL】

http://www.jica.go.jp/information/jdrt/2015/ku57pq00001qc0a0-att/JDRkansen_youkou201510.pdf